DEQX 保存ファイルの活用術

～ システムチューンナップ編 ～

DEQX_File_002 は、DEQX のデータを保存するファイル「O～O.mzd」の活用術です。

ファイルの保存やファイルの活用に重要な役割を担う「Save As...（別名で保存）」などは、ワープロのファイルなどと全く同様に考えれば良いのですが、保存されるデータの内容については DEQX 特有の作法がありますので、ここで整理しておきたいと思います。

＜ファイル名の付け方＞

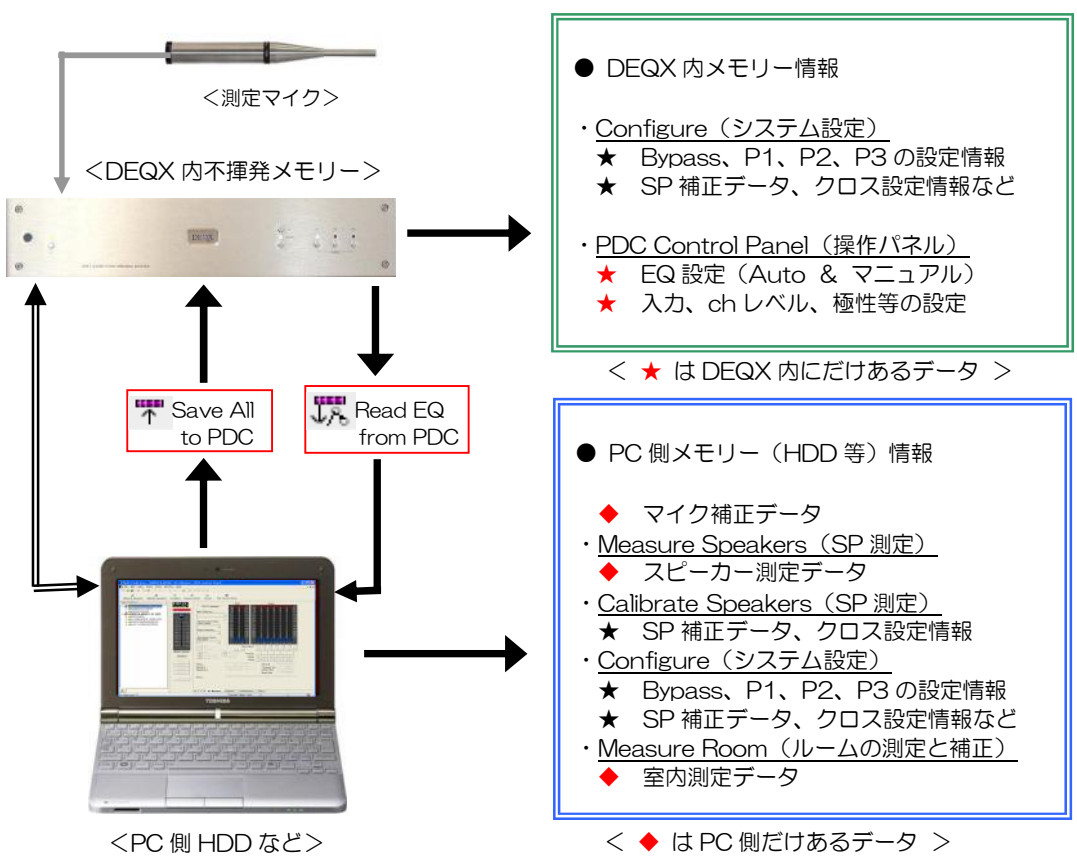
- ファイル名は英語（半角）でも、日本語（全角）でも 255 文字まで使える
- 後で使うときにファイルの内容ができるだけ分かり易い名称にする
- 例えば
  - 基準設定ファイル　→ TAD_Fos_3Way_010222_org.mzd
  - 上記の Save as･･･ → TAD_Fos_3Way_010223-V1_350Hz_10KHz.mzd

    システムの構成　日付　チューニング内容

    ★ もうシステムは変更しない、という場合は「システム構成」は省いてもよい
    ★ また、一日に何度も変更する場合は日付の後に「-V1」「-V2」などを付ける
    ★ チューニングした内容をファイル名に書いておけばさらに判りやすい

＜ファイルの保存と活用＞

- DEQX を導入して一連の測定と設定をした場合、これが「基準設定ファイル」となります
- スピーカーの設置場所を変更したり、SP システムやパワーアンプを変更した、といった基本的な変更があった場合は改めて「基準設定ファイル」を作ります。
- 「基準設定ファイル」を作った後で最初のチューニングを行う場合
  - DEQX のソフトを立ち上げて File → Open Project で、「基準設定ファイル」を読み込みます。
  - DEQX File 001 にあるようなマニュアル EQ の設定変更を行う場合
    - ✧ PDC Control Panel を開き、画面下部にある Equalizer タブ開く
    - ✧ もし、ルーム測定のデータが必要な場合（Auto EQ を再セットするなど）は
      - ● Measure Room を開き Room Measurement Wizard に従い、「基準設定ファイル」にある Room 測定データをロードし、 Control―Panel の Equalizer タブの画面に表示させる。

- この段階で Save As...（別名で保存） を実行し、「基準設定ファイル」の内容を誤って変更しないようにする。（ファイル名は「ファイル名の付け方」を参照）
- 安心して EQ のマニュアル設定を行う（DEQX File 003 で説明予定）
- 設定が完了したら（※）
  - ✧ Configure 画面を呼び出す
  - ✧ 画面上部の Read EQ from PDC をクリックし、DEQX 内に保存されている最新の EQ 情報を PC 側にダウンロードする。
  - ✧ PDC configuration 画面の下にある Equalizer タブをクリックして、画面上部にある「B」「1」「2」「3」を順次選択し、設定した EQ カーブになっているか確認する。
- 確認が OK なら File メニューから Save を実行する（既に別名で保存を実行しているので、ここでは Save を行います。）
- もし、ここで Save を忘れて終了しても、設定した EQ 情報はそのまま DEQX に残っているので Save As... で保存したファイルを読み込んで（※）からやり直せば正しく保存できます。

＜DEQX の保存情報概念図-その２＞